

アルテプラゼ（静注用血栓溶解薬）について

富山労災病院薬剤師 たかはし しんたろう
高橋 慎太郎

虚血性脳血管障害急性期（脳梗塞急性期）には、血管につまった血栓（血の塊）を溶かし、脳への血流を回復させて症状を改善する治療があります。

その治療は、遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベーター（rt-PA）であるアルテプラゼという注射薬を使います。（当院採用品：グルトパ注 2400万）

脳梗塞急性期に伴う機能障害の改善は、症状が現れてから 4.5 時間以内とされているため、アルテプラゼをなるべく早く使用されなければなりません。また、血栓を溶かすという薬の特性から、副作用として様々な部位に出血を生じます。そのため、アルテプラゼの投与開始までには多くの確認事項が設けられています。

アルテプラゼは、血液を固まりにくくする薬を内服されている方には慎重に使用しなければならないため、現在服用している薬を確認することが項目の1つとなっています。

緊急時にスムーズな確認を行うためにも、日頃から「お薬手帳」などに処方された薬剤の記録をとることが大切です。

「お薬手帳」は、保険証と一緒にしておくなどして、緊急時にも忘れずに携帯できるようにしましょう。また、複数の医療機関で薬をもらっている方は、服用している薬を「正しく確認」し、かつ安全に治療してもらうためにも、「1つのお薬手帳」に記録をまとめておきましょう。

参考：rt-PA（アルテプラゼ）静注療法 適正治療指針 第二版、グルトパ注 2400万 患者向医薬品ガイド（田辺三菱製薬）